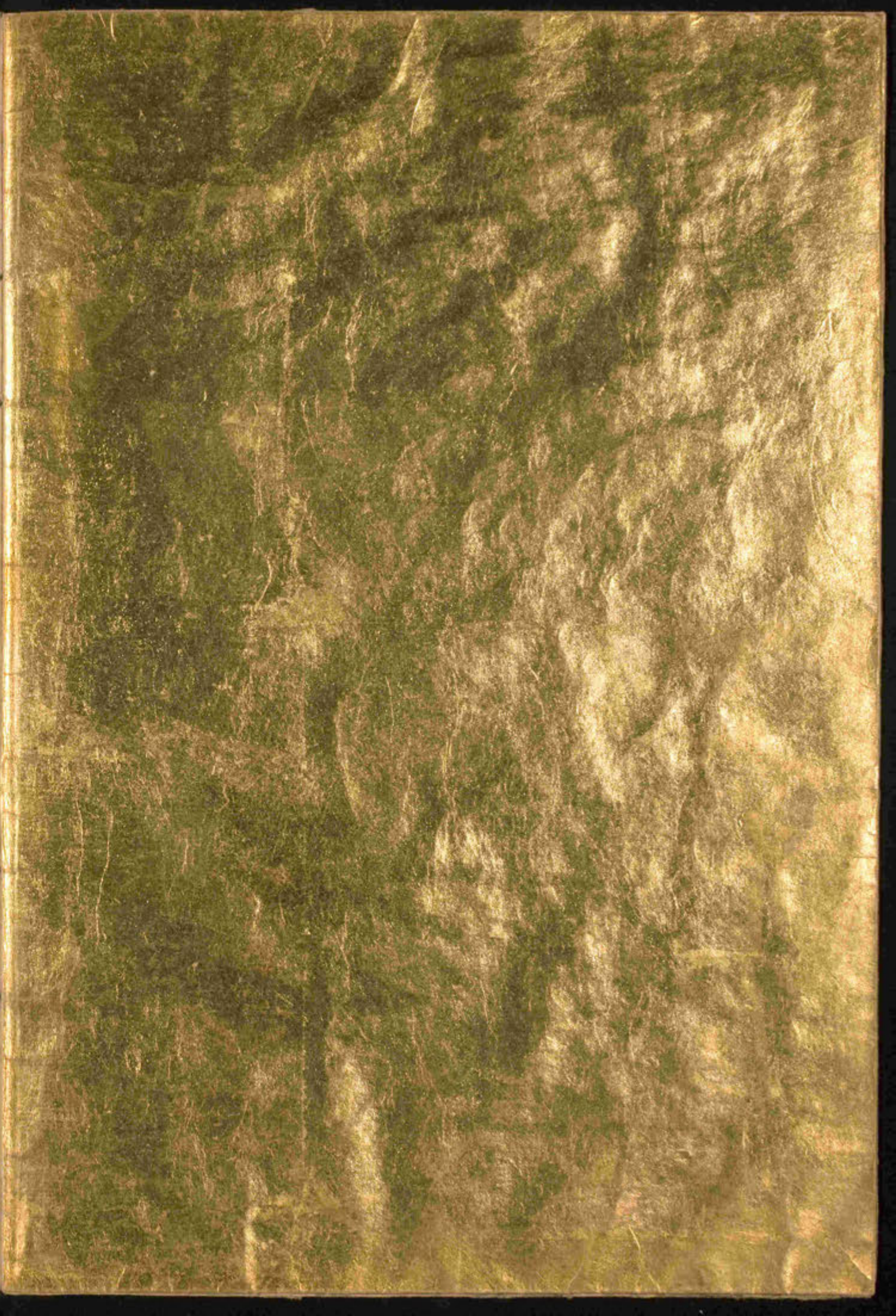


後鳥羽院御鈔

執事部御元道集



蘇州府志卷之四
蘇州府志卷之四



後鳥羽院御鈔

後成子

越部禪丘消息



[Faint, illegible handwritten text in a cursive style, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

事一として 階燭一寸も 詠一詩

一萬首 詠をよむこと 一詩 一練習 一

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠 一詩一詠

度事のつらさのつらさ

うらさくさくしつらさのつらさ

うらさくさくしつらさのつらさ

又

うらさくさくしつらさのつらさ

うらさくさくしつらさのつらさ

うらさくさくしつらさのつらさ

故と津門由存意にして新傳

時將あらはれ福のうらさく

うらさくさくしつらさのつらさ

うらさくさくしつらさのつらさ

うらさくさくしつらさのつらさ

家平のゆさくしつらさのつらさ

うらさくさくしつらさのつらさ

まなびてうらさくしつらさのつらさ

うらさくさくしつらさのつらさ

後述は師の御説に依りて
おぐれおめあめおの伏し
やうはうはうはうはうはうは

あつたはなまの度
あつたはなまの度

おの申法門の標
おの申法門の標

おの申法門の標
おの申法門の標

おの申法門の標
おの申法門の標

おの申法門の標
おの申法門の標

おの申法門の標
おの申法門の標

おの申法門の標
おの申法門の標

おの申法門の標
おの申法門の標

おの申法門の標
おの申法門の標

おの申法門の標
おの申法門の標

考録ホケノ家業(一)の成り
りすうろくも一也なりあまの業
しきもかしてはよきけり
いふにこそくはしきなり
そとある事よもしては
のぞくもかきしきなり
奇よろくも一也なり
はしきなり

守一のいふに
事よろくも一也なり
きよの考録も一也なり
ちよろくも一也なり
考録の考録も一也なり
しきもかしてはよきけり
そとある事よもしては
のぞくもかきしきなり
奇よろくも一也なり
はしきなり

しん 傍 義 士 人 ちん 義 士 人

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

徳 し 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

しん 義 士 人 の 徳 義 士 人 の 徳

ぼひのうーれういよし
さねもき換のあつま井して
うぐらゝのうをさしと 物横
うすけらうのいんにおく事
りさねのあつまうわゆや
あつまをさしとをの横は採け
うわうーいんうに採定れ
なるともさしとを採定れ

事と遠事うわ。あつま
完勝ア天と後れあつまの採定れ
出田の森れううとくあつま
あつまうううううあつま
の過言うううの採り放逸
ううううう。清濁とわさ
ううううう。物横
ううううううううう

百人
Voyage de ...

侍軍 ... 禮儀 ...

あつた ... の ...

れ ... の ...

との ...

海 ...

や ...

う ...

ま ...

は ...

あ ...

い ...

と ...

秋 ...

の ...

あ ...

てまひんくそんまはらふの
うんよあひん

神代、まのる相宗海

てん

仁治元年十二月つるお大原山
西村俊普僧人あし教念云人
山持清定居士あの中書

い清あま中あ地出書あ
非あ毛流願るあ中あ
流あし地あ信ああ身あ

通信房 時書院

弘安元年七月い百書字あ校
平いあああああああ
の宗書あ

物以类聚地之推野亦如之
译人金剛院長老 受道之人金弟 一物一由依因及
事之能令之召僅收許一見
午定底單身三傳之清年
之通為見人富好之正以海
功作之如涼地想底如也
言及如見人所

女讀香山隱士齋

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page.

備つしうの禮々守る此心あり
あゝ道々多く十修する事
ぬくう禮一うもあひ見え
うはしく事なほくはるま
そや一のぬらも三つとま
見々わら二守はとらていあ人物
此方よちていくくうまると見え
うてあろ撰集れあううそ

あまの海はあそ社とく
て河とく現あうらまへ
やうらまはなまひにりて
中一とあむあむくうのあ
三式集ああそくああ
ひ一あああああああ
なまよまあああああ
あああああああああ

よん年あまたのしるしを
せられたるこのしるし
うすくは金葉集詞苑
うすくは歌集
海らら物探
序のしるし
ちやうど
のしるし

新古今又春のたねの紅桑
といふふさふさの風
乃秋の月果露の雪丸
うすくは
うすくは
うすくは
うすくは
うすくは

世にちあもるのまに地
海にちあもるのまに地
とらるちあもるのまに地
あもるちあもるのまに地
右てをいもるのまに地
女房はちあもるのまに地
のすいもるのまに地
かめのいもるのまに地
くうもるのまに地
あもるちあもるのまに地
南殿のちあもるのまに地
て今もちあもるのまに地
ももるちあもるのまに地
かもるちあもるのまに地
平もるちあもるのまに地

父よ、いかにして、
奇れなる命、
南の事、
撰し、
のら、
天曆四年、
序の、
序よ、

と、
法、
わ、
ら、
や、
字、
事、

とてはかたしとてはかたしとてはかたし

申のしはかたしとてはかたしとてはかたし

のしはかたしとてはかたしとてはかたし

多にはかたしとてはかたしとてはかたし

にかはかたしとてはかたしとてはかたし

花にはかたしとてはかたしとてはかたし

いかにかたしとてはかたしとてはかたし

のしはかたしとてはかたしとてはかたし

はかたしとてはかたしとてはかたし

しはかたしとてはかたしとてはかたし

とてはかたしとてはかたしとてはかたし

とてはかたしとてはかたしとてはかたし

とてはかたしとてはかたしとてはかたし

伴のしはかたしとてはかたしとてはかたし

とてはかたし

とてはかたしとてはかたしとてはかたし

右考羽院清抄續行楷時勢
禪左後成消息之年年並之
為權家被借失之方純或仁令
出宮院

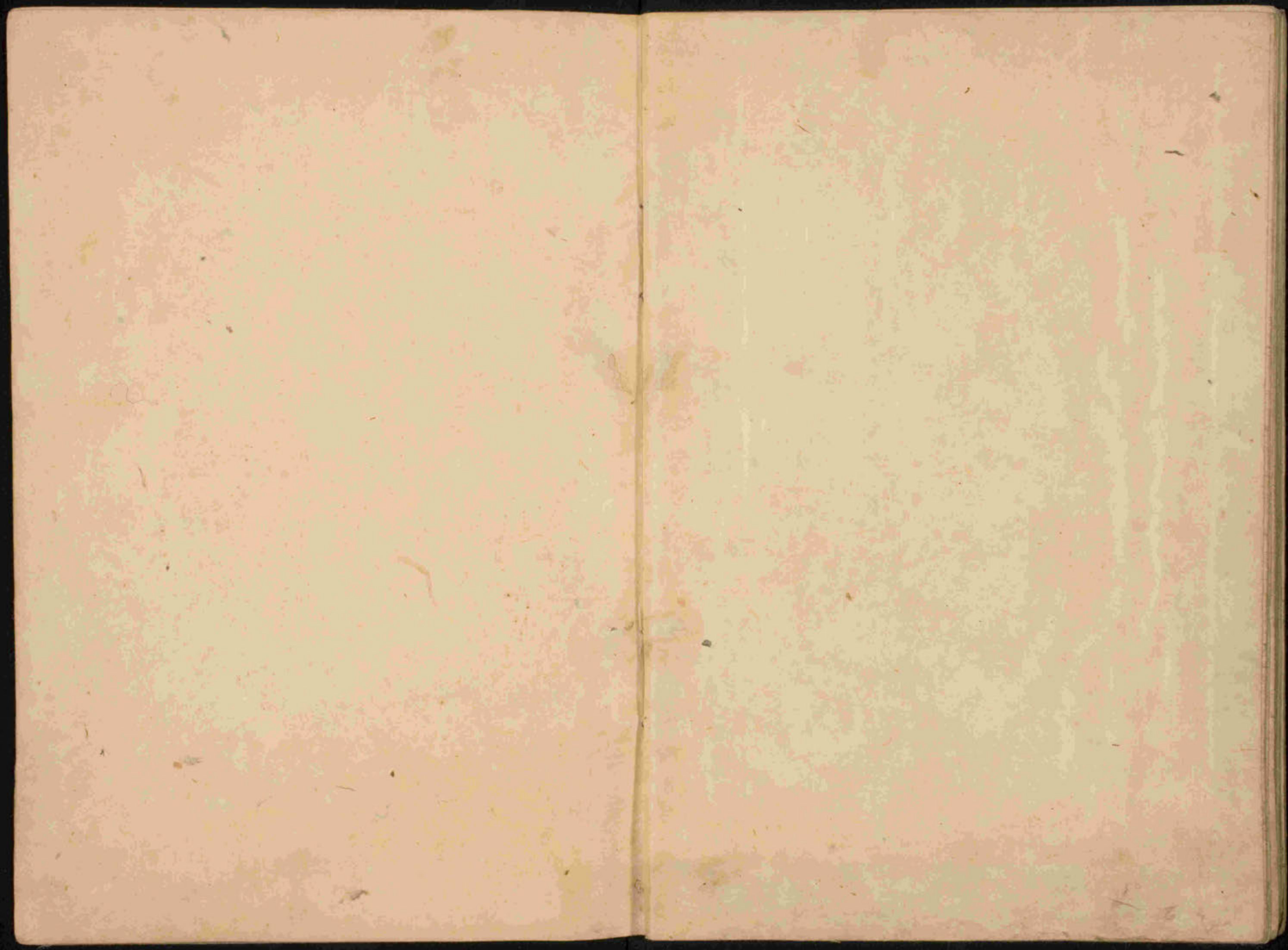
觀應三年九月九日

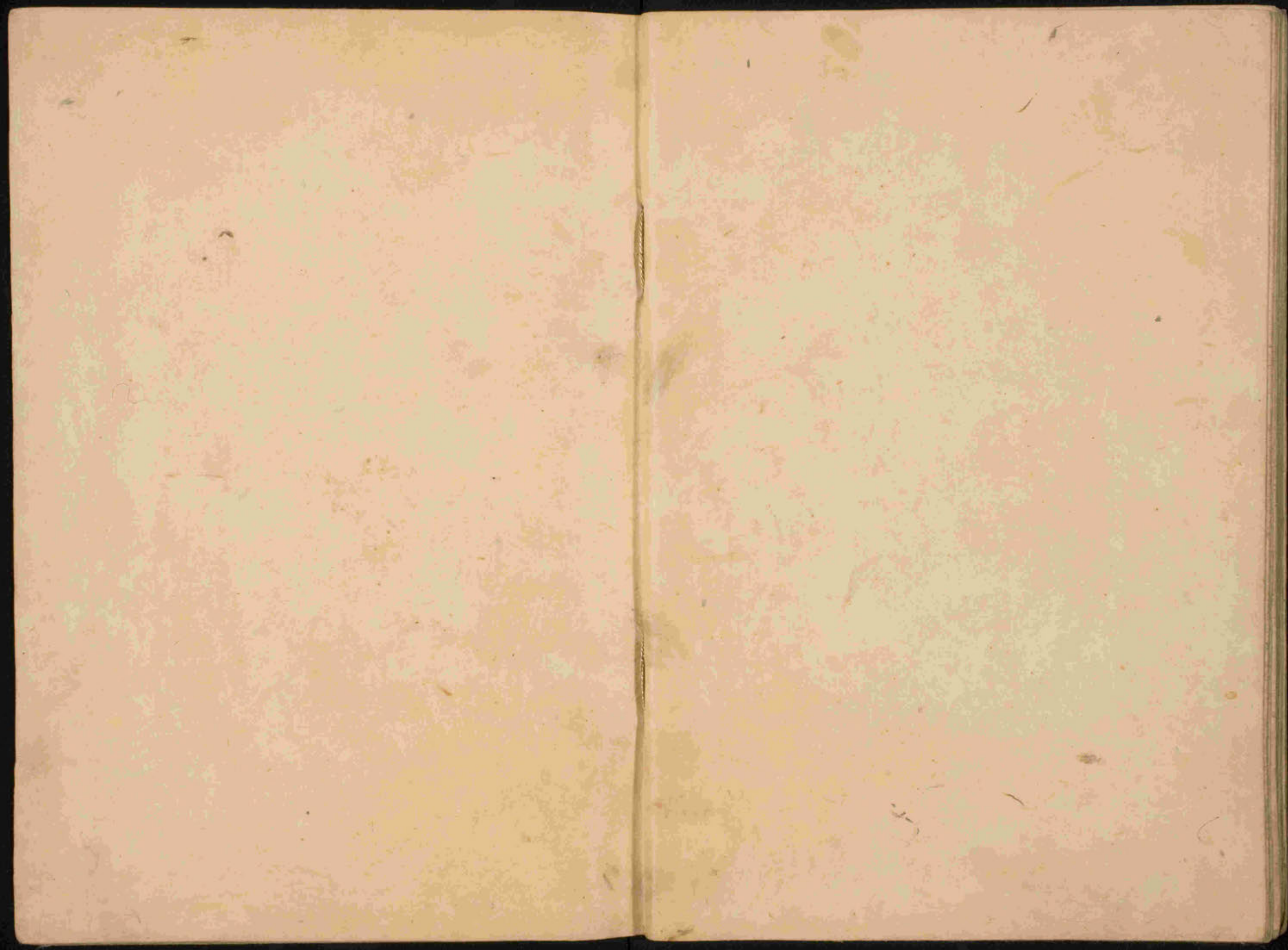
右後鳥羽院御抄之一冊者冷泉殿
為秀卿亦志錄分明之石之山與書
西方行者類門所筆必章判形
左跡者也誠可謂神上死敷所

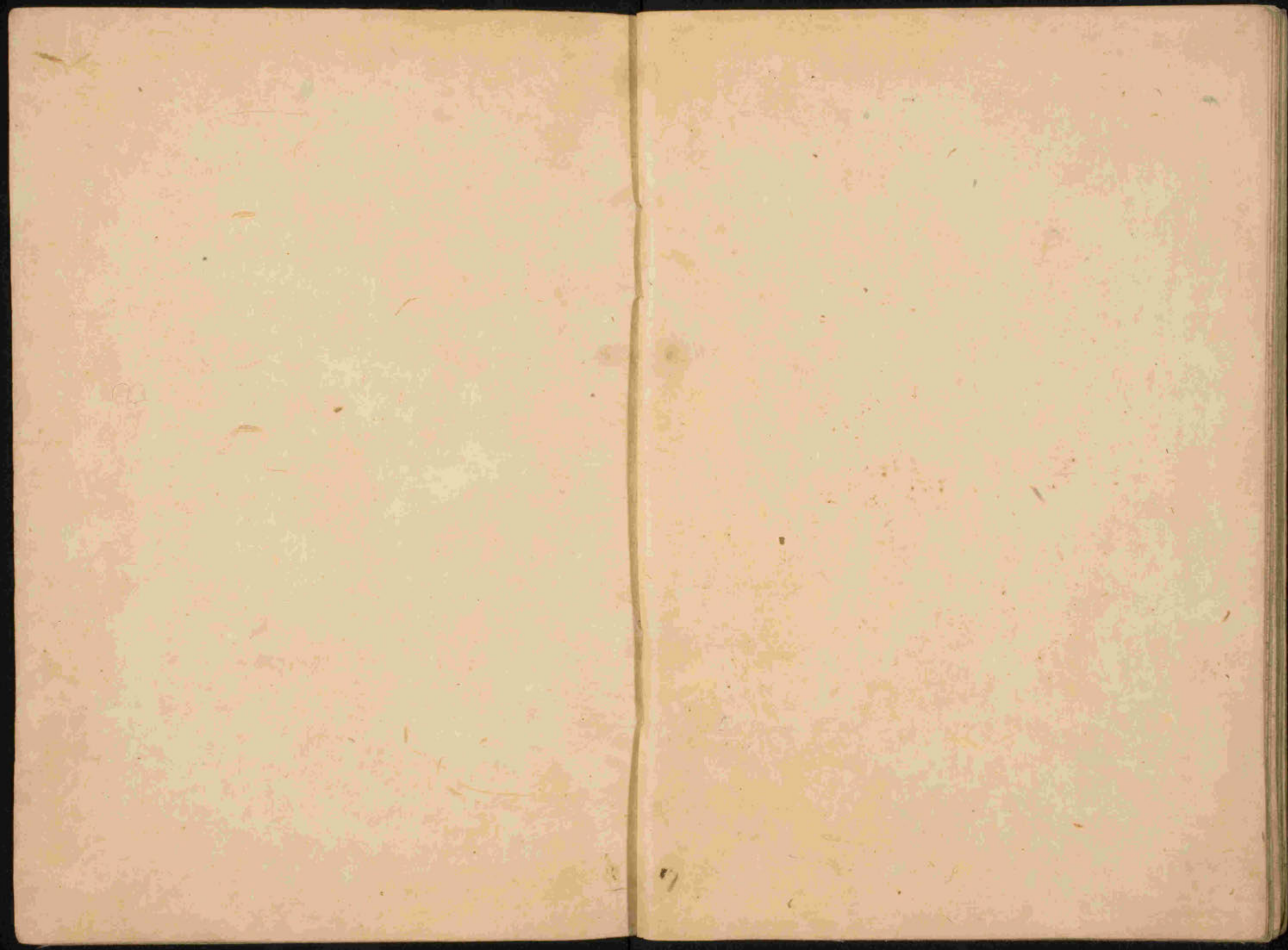
寬永四曆拾月二日

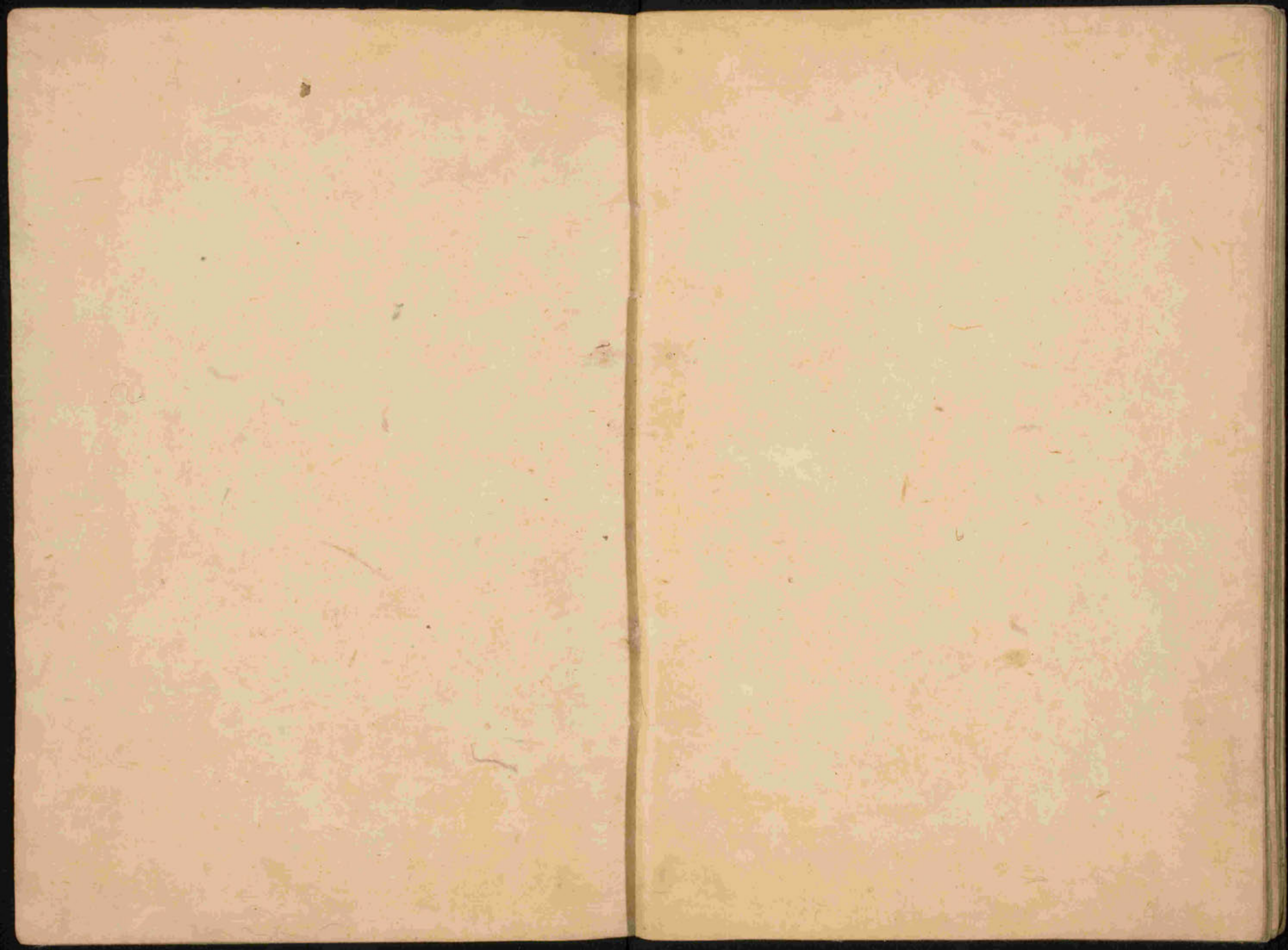
右筆了

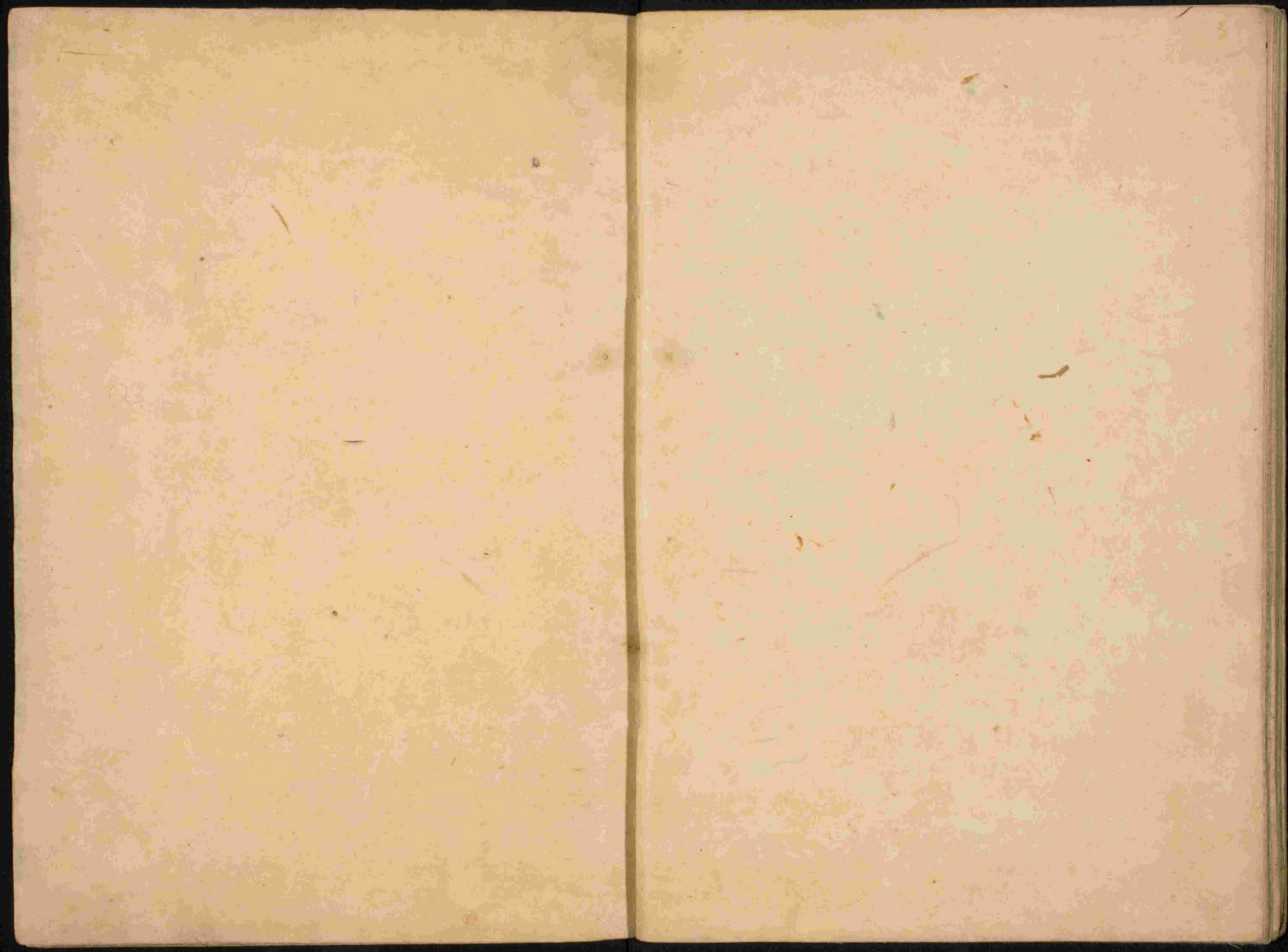


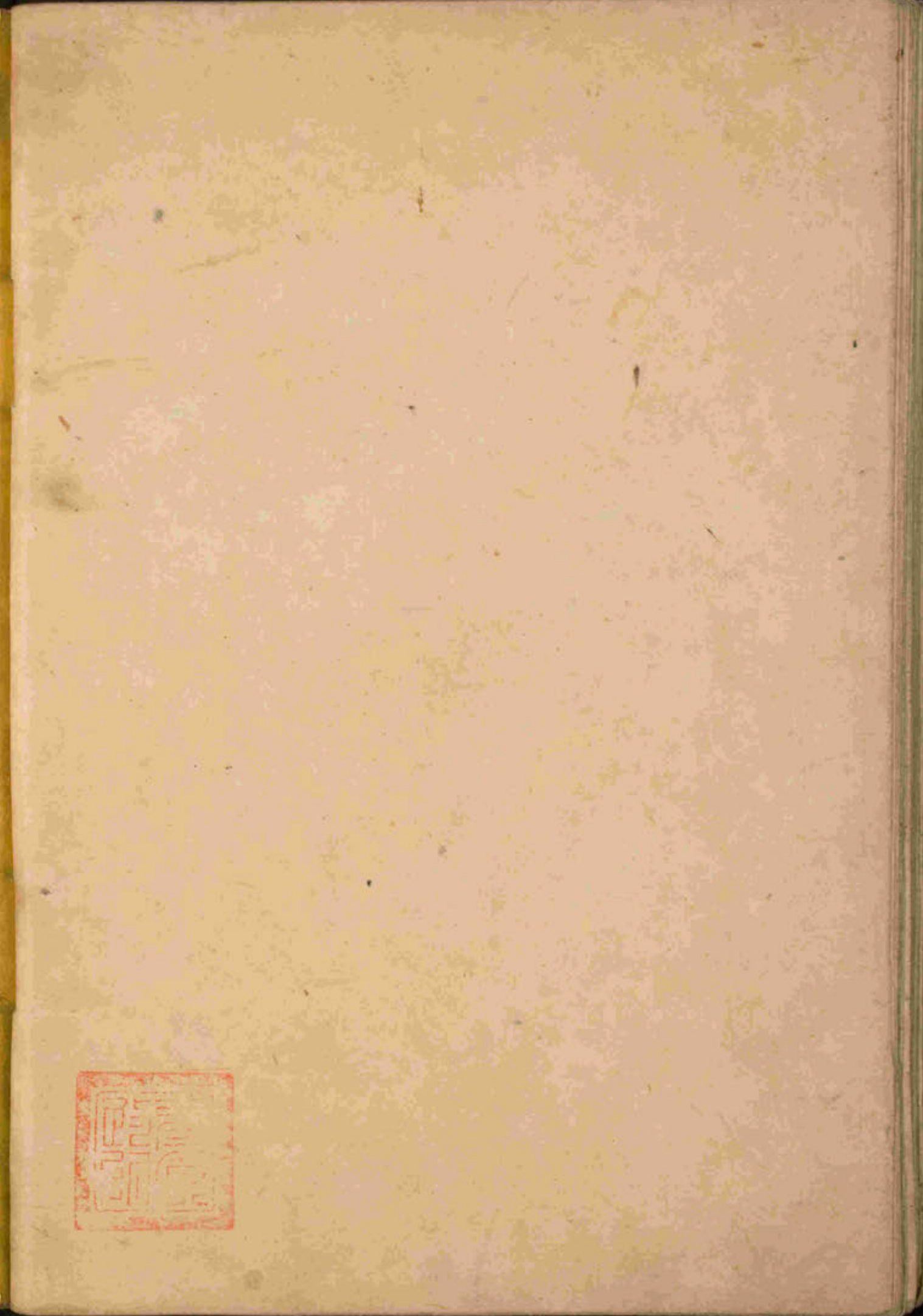
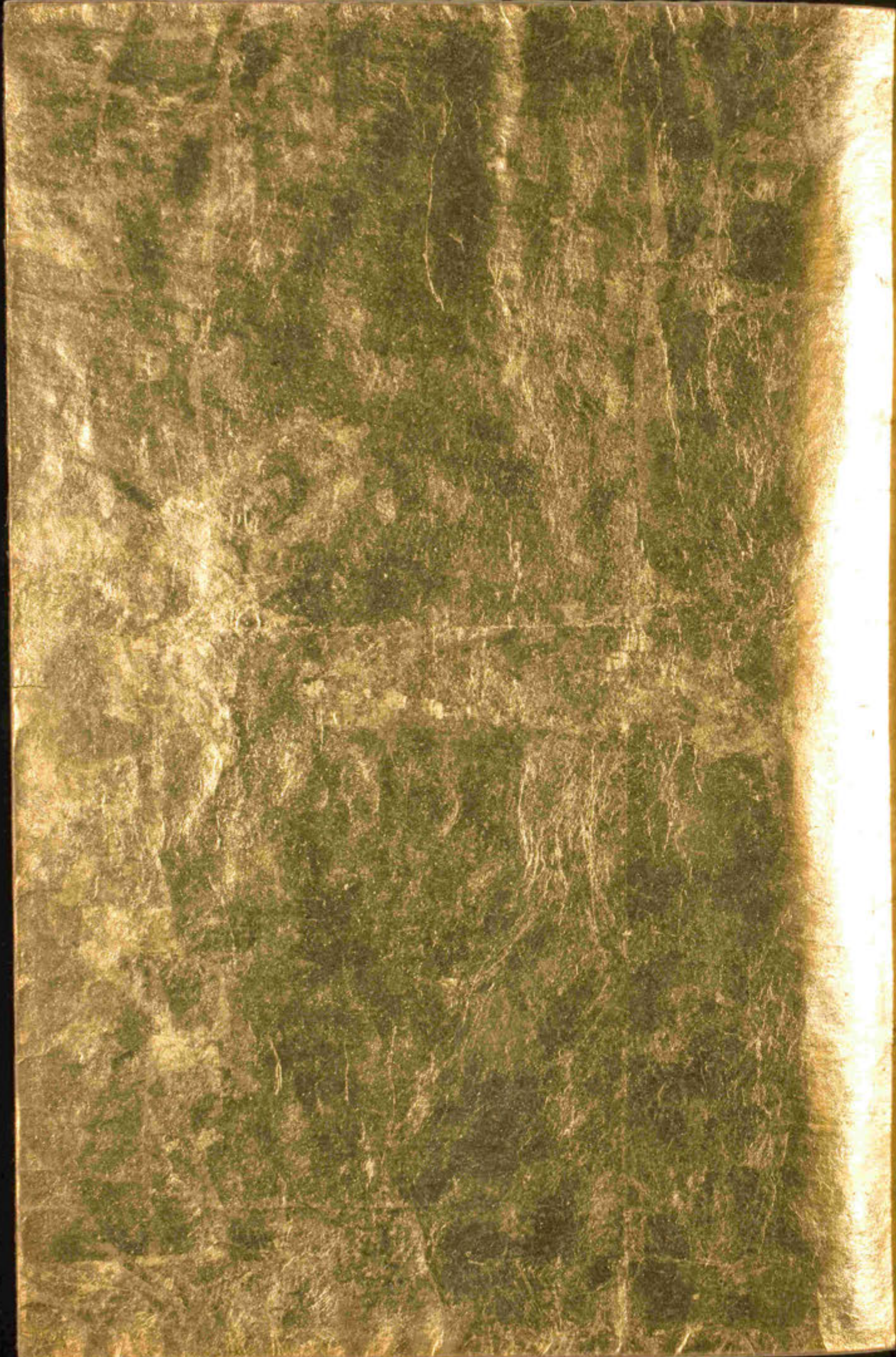














132X
26
1